

《担当者名》○金澤 潤一郎 (j16-kana@hoku-iryo-u.ac.jp) 百々 尚美

【概要】

人の発達は成人になって終わるわけではない。本講義では、大人への移行期である青年期から人生の終わりまでの発達について論じる。青年期以降では、人の発達は社会・文化・歴史との絡み合いを避けて通ることができず、その中で、発達上の問題も生じる。また、大人の発達は、家族形成や労働を通じて、次世代育成が大きな課題となり、子どもを含む次世代の発達と重層的に論じる必要がある。人の発達を幅広い視点で捉え、現実の問題解決につながる発達の視点の獲得を目指す。

【学修目標】

青年期以降の発達の特徴を把握する。

青年期以降の発達を社会・文化・歴史の中でとらえる視点を身につける。

現実の問題を発達の視点から論じることができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	発達段階	遺伝か環境か ゲゼル、ワトソン、シュテルン、ジェンセン 状況や文脈の中での発達 ヴィゴツキー、Bronfenbrenner	金澤 潤一郎
2	発達段階	発達課題 エリクソン、ハヴィガースト	金澤 潤一郎
3	発達課題	古典的発達理論のまとめ ピアジェ、フロイト、エリクソンの理論の対比	金澤 潤一郎
4	発達課題	生涯発達 バルテスと生涯発達の観点	金澤 潤一郎
5	ひきこもりとその対応	ひきこもりの理論とCRAFT	金澤 潤一郎
6	中間テスト	発達課題について	金澤 潤一郎
7	万引き防止の心理学	心理学を用いた万引き防止法	金澤 潤一郎
8	成人の問題	性別役割意識と労働	金澤 潤一郎
9	老年心理学の定義	老年期の抱えている問題を理解する。	百々 尚美
10	超高齢社会の現状	超高齢社会の現状を理解する。	百々 尚美
11	老年期の感覚と知覚	加齢による五感への影響について知る。	百々 尚美
12	老年期の身体機能	加齢による身体機能への影響について知る。	百々 尚美
13	老年期の注意	老年期の注意の特注について知る。	百々 尚美
14	老年期の記憶	老年期の記憶の特徴について知る。	百々 尚美
15	老年期の知的機能	老年期の知的機能の特徴について知る。	百々 尚美

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

金澤、百々の2教員よりそれぞれ評価がなされる。（100%）

1回目～7回目は中間テスト（20%）、期末試験（70%）と各講義におけるコメントカード（10%）によって評価する。

百々担当回分は、授業内で行うGoogle Formを用いた小テストの結果（10%）、および定期試験の結果（40%）を総合して評価する。

【教科書】

適宜プリントを配布する。

【参考書】

老年心理学 下仲 順子/著（培風館）
高齢者心理学 権藤 泰之/編（朝倉書店）

【備考】

この講義は心理科学部臨床心理学科の研究協力者プール・クレジットシステムを使用するため、研究への参加・協力に応じて、5%を上限として最終評価への加点が行われる可能性がある（詳細については初回講義にて説明）。
8回目以降は、講義内で小テストを行う予定である。出席の確認は回収された小テストによってなされる。
欠席回数については各自で責任を持って管理すること（欠席回数についての問い合わせには原則応じない）。
百々尚美担当回の授業資料の配布はGoogle Classroomを利用して学習課題を呈示する。

【学修の準備】

日頃から、ニュース等に注意を払い、青年期以降の発達について興味を持ち、現代社会の動向の中でとらえるようにする。
予習として参考書または前回の講義資料を熟読し、青年期以降の発達について学んでおくこと（80分）。
復習として講義内容を見直し、関連書籍を図書館で借りて、理解を深めておくこと（80分）。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

本講義は心理科学部臨床心理学科の以下のディプロマ・ポリシーに該当する。

- 1．心の問題にかかわる職業人として必要な幅広い教養と専門的知識を修得している。
- 2．社会の変化、科学技術の進展に合わせて、教養と専門性を維持向上させる能力を修得している

【実務経験】

金澤 潤一郎（公認心理師）、百々 尚美（公認心理師）

【実務経験を活かした教育内容】

公認心理師としての臨床・研究・社会的貢献の成果を反映させた講義内容となっている。